



TITLE:

[25-3]SBにおける粗粍生産量の推定  
-1983年と1985年の検見データから

AUTHOR(S):

黒田, 俊郎

---

CITATION:

黒田, 俊郎. [25-3]SBにおける粗粍生産量の推定 -1983年と1985年の検見データから-. DDニューズレター 1986, 25: 13-14

ISSUE DATE:

1986-03-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/243020>

RIGHT:

## 〔25-3〕 S B における粗粍生産量の推定

— 1983年と1985年の検見データから —

黒田俊郎

方法：

1983年と1985年はS Bのほぼ全筆について検見調査を実施した。0-9の10段階。収量の推定には刈り取り調査と検見調査から得た回帰式を用いた。

回帰式としては、

1981年データから  $Y = 36.94 + 30.74X$  (g/sq.m) (1)を

1983年データから  $Y = 121.32 + 20.11X$  (2)を

それぞれ得ている。

S Bの全水田(652筆)について生産量を推定し、それらを合計した。

結果：

1983年の粗粍生産量は87tと推定された。

1985年は刈り取り調査を実施していない。したがって検見調査からの収量推定には、(1)式と(2)式とをべつべつに当てはめてみた。(2)式によれば61tと推定され、(1)式によれば47tと推定された。1985年が干ばつ年であったこと、検見結果の頻度分布が1983年よりも低収側に偏っていること、1983年の回帰式のy切片が大きいこと、などから1981年回帰式によるほうが妥当である。

考察：

干ばつの1985年が、大豊作の1983年の55%に当たる収を生産したことになり、現地での観察と検見結果の分布地図からはやや過大評価の懸念が残る。推定方法の吟味が必要である。

他のNongに比較してのS Bの特殊性を考慮し、この結果からD D全域の生産量をにわかに推定することはできない。S Bの作付率が他のNongよりもかなり高かったことからだけ推測しても、1985年の全域における生産量は1983年の55%を大きく下回することは確かである。

表1. SB に 対 して の 粗 粉 生 産 量 の 推 定

① Sub Area	② 1983年 (2)式	③ 1985年 (2)式	④ 1985年 (1)式	⑤ ④/②
	(kg)	(kg)	(kg)	(%)
01	3814	3280	3023	79
02	19026	19205	16307	86
03	4213	4377	3001	71
04	5818	4247	4040	69
05	20034	11066	8461	42
06	11119	8298	6619	60
07	12236	4978	2837	23
08	7865	3981	2379	30
09	2951	1879	1036	35
合計	87076	61338	47703	55